

成果指標				
成果指標	利用者数を人気のパラメータとする。			
指標設定の考え方	利用者数を人気のパラメータとする。			
区分年度	24年度	25年度	26年度	目標27年度
目 標	16800	12000	16000	16000
実 績	15339	9160	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	施設をバリアフリー対策工事によりより多くの方に使用してもらえるよう改修を行った。市内、市外を問わず利用していただき、運動及び集会施設として活用していただきたい。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	25年度にバリアフリー等の改修を行なったので、今後の利用増が見込まれる。利用について広報を行なうことも考える。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題